

被災地に贈る夫婦の調べ

東日本 大震災

夫婦で演奏活動する倉敷市のバイオリニストの入江洋文さん(43)と妻でピアニストの西牧尚子さん(40)が30日午後2時から、北区奉還町のオルガホールで東日本大震災の被災者支援のためチャリティーコンサートを開く。震災のあった2011年から続け、4回目。2人は「二緒に、被災地に思いをはせる時間」と話している。

【五十嵐朋子】



「被災地に思いをはせる時間」と話す入江洋文さん(左)と西牧尚子さん(右)倉敷市で

チャリティー公演

「音楽は生きる希望」

30日、オルガホール

岡山

息のぴったり合った演奏を練り広げる2人。入江さんの豊かなバイオリンの音色を、西牧さんのピアノが受け止める。2人でアンサンブルするように

なり10年以上。入江さんは「演奏は、普段の会話の延長」と言う。

震災が起きた時、「何かしな

る国際医療NGO「AMDA」(北区)に会場探などで協力を得て、福祉施設などで演奏した。会場では涙を流す人もいたといい、2人は「聴きたい」という思いが伝わってきた」と振り返る。西牧さんは「音楽は生きる希望になる。人間にとっ必要なものだと改めて感じた」と話す。

30日のコンサートはシューマンの「バイオリンソナタ」などのクラシック曲のほか、ミュージカルや映画の曲を取り入れ、

ければ」という思いに駆られ、翌4月に最初のチャリティーコンサートを岡山市と津山市で開催。以来、「次はいつやるの」という来場者の期待も受け、毎年続けてきた。

「被災地の方に演奏を聴いてもらい、少しでもほっとしてもらいたい」という強い思いもあり、昨年10月、岩手県釜石市と大槌町を訪問。東北支援を続け

リラックスできる選曲にした。入江さんは「震災というテーマを意識しすぎず、気軽に楽しんでほしい」と話している。

AMDA共催、おかやまコープ協力。会場では風景画家の本泰さんの水彩画や、AMDAの活動紹介パネルを展示する。入場料1500円。問い合わせは入江さん(086・462・6113)。